

## 第8回 帯広市都市計画マスタープラン検討専門部会 会議録 要旨

日時：令和元年10月7日（月）15：00～16：00

場所：salon 齋藤亭

### ■会議次第

- 1 開会
- 2 都市建設部長あいさつ
- 3 専門部会長あいさつ
- 4 議事  
(1) 第2次帯広市都市計画マスタープランに関する協議
- 5 閉会

### ■出席者

- 委員：小林英嗣（部会長）、河西智子、窪田さと子、関口真弘、長沢敏彦（全5名出席）
- 事務局：和田亮一、山名克之、大橋貴、池田裕雅、奥秋努、  
涌井一憲、中鉢和貴、佐藤健二、阿部諒平

（敬称略）

### ■傍聴者等

- 傍聴者：1名
- 報道：1名

### ■委員の意見等

(1) 第2次帯広市都市計画マスタープランに関する協議

- ・自治体が策定するすべての計画の基本となるのは、総合計画である。イメージとしては、それを組み立てるパーツの1つとして都市計画マスタープランがある。そのため、総合計画に即する都市計画マスタープランの基本理念では、総合計画より壮大な印象を受けるようなキャッチフレーズは、避けるべきではないか。
- ・具体的な都市づくりに繋がるようなキャッチフレーズがいいのではないかな。
- ・自然との共生は帯広市における大きなテーマだと思う。今回キャッチフレーズの案として提示されているキーワードでは、そういった言葉があまりないように感じるので、今まで引き継いできた、帯広らしさが表現されるような言葉を入れてもいいのではないかな。
- ・帯広らしさのような文言がなにかほしい。市民の方に誇りを持ってもらえるようなワードがいい。
- ・自然共生とコンパクトがどのように結びついていくかが難しい。
- ・地域の力、若者の力が発揮できる、そのようなまちになればいいと思う。
- ・将来、ちょっと出掛けたくなる、出掛ければ楽しいことがある、そんな人間味溢れるまちがいい。また、高齢化も進行するため、動きやすい、移動しやすい、公共交通や歩行空間の整備が重要となってくるのではないかな。先をどう見通すかによって、考え方も変わってくる。

・歳入は減るが歳出は増える。そのような状況においても、今まで作ってきたものは質を落とさずに、市民生活を支え、持続性を担保する施策を検討すべきである。

・住民や企業の活動に投資をするなど、行政と市民、企業、大学が連携しながら進めていくべきである。

・行政はなるべく遠くをみて、長期的なビジョンを持つべき。そして少しずつ計画事業を実行していく。これまでは計画を立てた後、一定の期間が経過しなければ見直すことはやらなかった。今後は小さな事業レベルで社会実験などを行い、みんなが共感できることを積み重ねていくべきである。

・比較的短期の取り組みをどんどんまわしていく「アジャイル型」が今後重要となってくる。長期的に考える従来の「ウォーターフォール型」から考え方を転換して、失敗を恐れずにチャレンジしていこうということ。

・帯広はこんなに魅力的なところだからみんなで住み続けよう、こんなにいいところだからみんなで移り住みませんか、というイメージが大切。今後はテレワークの場としても考えられていくべきである。

・アジアの人が学ぶ場としても、グローバルな魅力を発揮していくことが必要。

・トライできる環境は大切。トライ&エラーを許してくれる環境が重要である。

・色んな所で知り合いに出会える、食べ物、自然など、帯広の「ファン」になる人が多い。

#### ■その他

・専門部会は、都市計画マスタープランの検討について協議を行う組織であるが、マスタープランの策定後も、プランの活用方法や具体的な取り組みについて、引き続き議論をしていくものとする。

以上